



三潴保育園 園だより

February 2023



なかなか雪が降らないと思っていたら、ここ数年感じた事がないくらいの大寒波がやってきましたね。プールやバケツの水が氷になるだけでなく、凍結予防で流していた水道水が氷柱になるほど冷え、「ここに氷があった!!」など氷探しを楽しんでいた子ども達も沢山いました。「雪がもっと積もったら大きな雪だるまを作れるのに」とまだまだ楽しみたかったようです。

これからますます寒さが厳しくなる2月。冬の自然物に触れ、思いっきり冬遊びを楽しんでいきたいと思います。

さて、2月5日(日)、ゆり組・すみれ組は筑後地区器楽発表会に参加します。子ども一人ひとりが役割をもって曲を仕上げてきました。メロディオンでは速いリズムに指の運びを合わせる難しさを感じたり、楽器では初めて触れる喜びを感じ、先生達と一つ一つリズムを口ずさみながら練習に臨んできました。一人で弾くだけでも十分難しいことですが、お友達と合わせるのはもっと難しい。人の音を聞いては「僕と一緒に音がする」「きれいな音が聞こえる」など気づき、誰と合わせるのか考えながら次第に一つの音楽にまとまるようになってきました。みんなが揃って練習することが出来ない日も続きましたが、子ども達は胸を張って発表してくれることと思います。残り数日ではありますが、ご家庭でも子ども達にぜひエールを送っていただけたらと思います。

また、2月といえば節分。各クラス、豆まきに向けて鬼のお面作りが着々と進んでいます。ゆり組・すみれ組は、廃材を使ったり材料を自分で考えたりと一人ひとりこだわりあるお面が出来上がってきています。小さい子達のクラスでは、絵本や鬼瓦、童謡などから鬼のイメージを膨らませ「やさしい鬼」を作っている子も多くいるそうです。

『邪気を追い払い幸せを呼び込む』願いを込めて「鬼は外、福は内」と大きな掛け声をしながら豆まきを楽しみたいですね。

名頭園 弥生

クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~

たんぽぽ組

- ・探索遊びを楽しみ、身の回りにある様々なものに興味を持つ。
- ・一人ひとりの体調に留意し、寒い冬を健康に過ごせるようにする。

もも組

- ・「自分で」という気持ちを持ち、身の回りのことを自分で行おうとする。
- ・保育者や友達と一緒に、簡単な言葉のやり取りをしながら好きな遊びを楽しむ。

ばら組

- ・冬の遊びを楽しみながら、冬の自然事象への興味を深める。
- ・行事の由来に興味を持ち、親しむ。

うめ組

- ・身の回りのことに対して意欲を持ち、ほとんど自分で出来るようになる。
- ・寒さに負けず、戸外でかけっこやマラソンなど元気に遊び、健康な体をつくる。

すみれ組

- ・寒さに負けず、外で元気に体を動かし、体力作りを行っていく。
- ・自分なりに表現することを楽しみ、認められる喜びを味わう。

ゆり組

- ・友達と共通の目的に向かって取り組み、やり遂げた達成感を味わう。
- ・寒さに負けず体を動かして遊ぶことを楽しむ。

2月の行事予定

- 3日(水) 豆まき
- 5日(日) 器楽合奏発表会
ゆり組・すみれ組
(シティープラザ久留米)
- 9日(木) 避難訓練
- 27日(月) お誕生会
- 20日(月)~24日(金)
身体測定

【制服・体操服等注文がある方】

- ・後日、「制服の注文とお渡しについて」お手紙を配布しますのでご確認お願いいたします。
- ・帽子の注文用紙を配布しますので、代金を添えてご注文ください。

たんぽぽ組 森本 綾先生

2月より産休・育休に入られました。

スウェーデンの教育者「ジェーン」がやってきた！

1月の雪の日。寒い国 スウェーデンからお客様がやってきました。

ジェーン・ウェンズビーさん。

スウェーデンで数多くの保育園を劇的に生まれ変わらせた経歴を持つ人です。

ペタゴジスタ（教育者）であり、アトリエリスタでもある彼女を、日本の名だたる保育学者達も何度も現地に保育視察へ行っています。

実は國友が前職で幾度となくスウェーデンを訪問し彼女から多くのことを学びました。そんな彼女が、遊びに来てくれるならせっかくだから保育園を紹介してみよう！という事になりました。日常の様子を見てもらいながら、たんぼぼ組の壁に貼り出したドキュメンテーションを説明しました。1歳になったばかりの子でも自分の探求心にわくわくする姿を捉えた瞬間と、保育者の考えをまとめたものです。

ある雨の日。傘を差しながら1歳の男の子と散歩をしていました。「傘に雨が落ちる音に興味を持ってくれるかな。」と大人同士語り合いながら散歩を続けると、彼が興味を示したのは「音」ではなく、「自分を包む傘の色と模様」でした。そして、次に彼は「お！」と言いながら視線をしてくれ、指をさしました。そこには水たまりが。彼は何度も「お！お！」と言いながら、じーっと見つめていました。彼は大発見をしたのです。「水たまりに雨が落ちた瞬間の波紋」です。

大人が最初に予想した「雨音への興味」は見事に外れました。彼は彼なりの感性で、これは何だろう？と興味や関心がわいて、それに真っすぐに向き合ったのです。彼が自らの興味から学んだ瞬間に立ち会えました。

まだ自分で自分の欲求や意思を明確に言葉に出来ない子ども達。だからこそ、大人が「これやってみよう！」と一緒に経験する中で、大人の先入観にとらわれずに、子ども達の五感を刺激し、その感性をはぐくんでいきたいと思えます。

保育士 ON

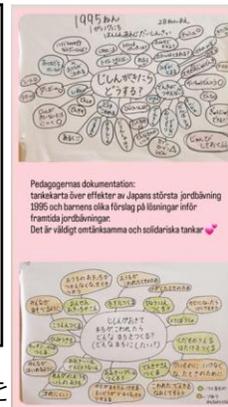
ジェーンはこの文章にある「子どもの五感を大切にしたい」という言葉に反応し、

「五感を刺激して、その反応を受け止める事がとても大事」と答えてくれました。また、このドキュメンテーションを読み終え「子どもと何かを行う前に大人が予測する事はいいことね。だけど、子どもはそれを見事に外してくる、その時にその興味を拾って広げようとする事は本当に素晴らしい」とも言ってくださいました。「写真の彼のまなざしを見たらわかる。彼は自分の心が、自分自身が興味を持つことでほとんど占領されているじゃない。これが学びよ。」と。



また、すみれ組の部屋では避難訓練からのマインドマップの話に真摯に耳を傾けてくれました。この活動は、1月の避難訓練からはじめた内容です。「25年前、日本で大地震が起きた。お家が壊れた。家族もお迎えに来れない。」そんなことが実際に起きたら、私達の生活はどうなるのか？想像したのです。その3日後、1月17日。阪神淡路大震災のメモリアルの日。今度は子ども達と「街を自分たちの手でリビルドするなら」という前向きな話をしました。というも自然災害や戦争で街がなくなってもそこから再建するのは人間。「こどもには教える」のではなく「子どもにこそ、自分達ならどうしたい」を聞いてみました。すると、子ども達のほとんどは「みんな」のこと、つまり「すべての人達」の為に考えたことでした。例えば「公園作ろう。皆が遊べたほうがいい」「秘密基地も作ろう！そこにはキッチンもベッドも必要だね。みんなが入れるくらいがいいね」そして、「プールも作ろう！火事の時も使えるし、水道が使えなくなっても便利だよ」と。さらには「果物を植えよう。だって、買い物に行けなくなったらみんなでそれを摘んで食べられる」という意見も。そんな子ども達のアイデアにジェーンはとてもうなづきながら聞いてくれました。そして自身のフェイスブックにも「これは教育者によるドキュメンテーション：1995年日本で

ジェーンフェイスブックより



起きた最大級地震に関するマインドマップと、子ども達の未来に対する様々な提案。とても思慮深く、連帯感のある提案です。」とあげてくれました。ジェーンたちが保育で大切にしているのは「子どもも市民」という事。彼・彼女らも社会に参加して、意見を言えて、自分達には社会を変える力がある！と子どもの頃から感じる事。そう感じられるように子ども達と関わっていく事です。そんな国だからこそ、あの有名な環境活動家グレタ・トゥンベリ（20）が生まれるのでしょうか。

我々は、ジェーンに沢山のアドバイスと肯定をもらい、とても励まされました。これからも子ども達が大人になった姿を想像しながら関わっていきたいと思えます。